

# 平成31年度学校自己評価システムシート (県立狭山経済高等学校)

目指す学校像	「進学にも就職にも強い学校」－高度な資格取得は進路実現への架け橋
--------	----------------------------------

重点目標	1 学力の向上と、進路指導体制の充実を図り、進路実現を目指す。 2 生徒指導と特別活動を充実させ、健全な体と心を育成する。 3 中学校・地域・家庭との連携を図り、開かれた学校づくりを目指す。 4 安心・安全な学校づくりを目指す。
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	7名

学 校 自 己 評 価								学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標					年 度 評 価 ( 2 月 1 日 現 在 )			実 施 日 令 和 2 年 2 月 1 4 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	進学では、安全圏内の進学先で満足する傾向が強い。就職では、自己の興味の有無のみで選ぶ傾向がある。	将来の自己の生き方を見据えた進路選択及び資格を有効に活用した進路実現	①個々のキャリアデザインを支援する進路ガイダンスや個人進路面談の実施 ②各学年ごとに取り組んでいる経産省、日商、全商等の各種検定を活かした進路実現	①卒業時の進路先状況 ②生徒・保護者の進路に関する関心度を進路状況報告会等における参加人数の前年度との比較 ③各種検定の合格者数	進路指導部を中心に生徒の希望進路実現のため組織的に取り組むことができた。 ①資格等を活用し、卒業予定者のうち、進学者54%(大学25%・短大7%・専門学校22%)、就職者44%の進路実現を図ることができた。 ②進路報告会等の参加者数は前年度と同数だったが進学に関心の高い保護者が多く参加した。 ③日商簿記検定1級1名・2級7名、ITパスポート2名、英語検定2級1名・準2級4名合格させることができた。	A	自分の将来設計や保護者の意向を十分に踏まえた進路選択ができない生徒も見受けられるので今後のことを考えた進路選択をさせる必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路選択ではキャリアデザインについて提示していく方法が大事である。</li> <li>・時代の変化を読み取る感覚を育ててほしい。それに加えて資格やスキルの取得ができれば良い。</li> </ul>	
2	様々な場面で、生徒はあいさつなどの礼儀はできているが、正しい身だしなみなど不十分などところがある。指導方法の模索が必要である。	成人年齢引き下げに伴う社会人として必要なマナーやルールの習得と自律心の育成	①身だしなみなどの基本的な生活習慣の指導 ②生徒会活動、部活動等の活性化に向け、生徒会と担任・HR委員、部顧問と連携し、各行事への綿密な計画立案、わかりやすい資料作成及び行事の説明会を実施する。	①生徒指導部の立哨指導等により遅刻数の減少や頭髪・服装などの状況の変化 ②アンケート等を通じて生徒会活動が充実した活動内容だったか、生徒が積極的に学校行事等に取り組むことができたか。	社会人として必要な資質を教育活動の中で身に付けさせることができた。 ①立哨指導や整容指導により、欠席・遅刻・早退数、頭髪・服装等の身だしなみは概ね改善できた。 ②学校行事を通じて生徒間にコミュニケーションを高める機会となり、クラスの絆等が深まるなど概ね肯定的な意見が多く生徒の満足度は高かった。	B	学校生活における諸場面でそれにふさわしい服装・態度の在り方について継続的に取り組んでいく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の姿勢、教員の取り組み等、教育環境に恵まれている。</li> <li>・校外・校内の行事だけでなく、普段から生徒間のコミュニケーションを深めてほしい。</li> </ul>	
3	生徒募集については、現在の方法を踏襲しつつ、中学校との連携強化を図り、地域社会との関係を強め、新たな方策を検討する必要がある。また、本校の特色を更に地域に知ってもらうため、継続的に地域と連携する必要がある。	本校の教育活動を地域や近隣の学校に情報発信し、地域との連携を深める教育活動の推進	①学校説明会、中学校訪問、出前授業など組織的かつ計画的な実施及び本校の教育活動の魅力のPR ②地域活動への参加やホームページ、「経高だより」など広報誌を市役所等に掲示を依頼し、地域や家庭へ本校の教育活動を情報発信する。	①学校説明会等の内容の充実度及び参加者の満足度の割合 ②地域での参加に貢献できたか。 ③学校だよりの年3回の発行やHP更新回数・アクセス数の増加	中高連絡委員会を中心に生徒募集に向け組織的に取り組むことができた。 ①学校説明会、イブニング説明会、中学校訪問・出前授業等に取り組んだ。イブニング説明会では意識の高い中学生及びその保護者の参加があった。学校説明会を昨年度より1回減らしたが、昨年並みの参加者を募ることができた。 ②生徒会を中心に各部活動などが地域の活動に積極的に参加した。 ③本校の教育活動を常にHPに更新し、本校の教育活動の魅力を伝えた。	B	中学生やその保護者に向けて専門高校を理解するための有効的な情報発信を続ける必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校説明会、体験授業、進路学習会など今後とも引き続き中高連携を深めてもらいたい。また、専門高校の特徴がわかる体験授業を引き続きお願いしたい。</li> <li>・地域との連携も最終的には人と人の関わりである。学校側から積極的に出かけて行ってほしい</li> </ul>	
4	自動二輪の取り扱いのルール変更による安全教育の徹底や「いじめは絶対に許さない」という教職員の共通理解のもと、生徒の様子を注意深く観察し、少しの変化にも気付くよう教員の意識を高めていく必要がある。また、今後、SNSで派生する諸課題について対応していく必要がある。	安心・安全を実感できる環境づくりの推進	①三者面談、進路面談等の生徒観察を通じ、いじめ、SNS等の問題行動の未然防止への取り組み ②自動二輪や自転車等による交通事故防止に向け、講習会等の交通安全指導の徹底 ③地域医療機関や学校カウンセラーとの連携	①アンケート等で学校がいじめの未然防止に努め、いじめを未然に防ぐことができたか。 ①SNS等の使い方の指導を生徒指導部を中心に組織的に取り組み、SNS関連の問題行動を未然に防ぐことができたか。 ②自転車マナーアップ講習会等を振り返って交通事故防止への意識が向上したか。 ③教育相談の研修会を行い、研修会の内容が学年やクラスの指導に活かせる内容だったか。	生徒指導部を中心にSNS等に関連した問題行動を含めたいじめの対応に努めた。 ①生徒等にいじめに関するアンケートを年2回実施し、いじめの実態把握に努めた。 ①SNS等に関連した問題行動の未然防止に向け講演会を実施した。 ②自転車マナーアップ講習会に参加した生徒が講師役になり、マナーの向上に向けて意識を喚起することができた。 ③カウンセリングを希望した生徒・保護者に実施し、個々の相談に応じ、問題解決に努めた。	B	今後もSNS等に関連した問題発生が考えられる。改めてSNS等の規定・指導方針の在り方について検討していく。いじめについてはその防止に向け生徒の意識を向上させていく必要がある。若手教員を中心とした生徒指導に関する勉強会を実施したので次年度も継続していきたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会に出ると様々な理不尽な事に直面し、それを乗り越えなければならない。たくましさを培い、問題が解決できるよう教育してほしい。</li> <li>・生活の中でのスマホとの付き合い方が変化している。時代に対応した指導をお願いしたい。</li> </ul>	